

平成18年11月12日

科学技術史受講者各位

担当 樋口 良之

<http://www.hi-higuchi.com/>

科学技術史  
平成18年度 後期 中間評価レポート

## 1. レポート課題

次の(1)と(2)についてレポートをまとめなさい。

(1) 授業で解説されていたマクロな科学技術の発展過程, ミクロな科学技術の発展過程について, それぞれ図を用いて解説しなさい。

(2) 次の課題の中から一つを選び解説しなさい。

- ・具体的な科学・技術の系統事例を一つあげて, マクロな科学技術の発展過程が連続していることを検証しなさい。
- ・マクロな科学技術の発展過程が成立している史実を3つあげて, 発展過程のモデルを検証しなさい。
- ・具体的な科学・技術の系統事例を一つあげて, ミクロな科学技術の発展過程が連続していることを検証しなさい。
- ・ミクロな科学技術の発展過程が成立している史実を3つあげて, 発展過程のモデルを検証しなさい。

## 2. 提出日時と場所

平成18年12月14日(木)と12月21日(木)のそれぞれ授業開始直後と授業終了直後に, 授業を行う教室にて担当教員がレポートを受取る。レポートの提出にあたっては, 担当教員が, 名簿に提出済のチェックをしたのを確認してください。チェックがない場合には, レポートが未提出という場合があります。

## 3. レポートの体裁

(1) レポートはA4サイズであれば, 縦置き, 横置きを問わない。また, 縦書き, 横書きも問わない。ボールペン, 鉛筆などによる手書きのものでも, パソコンなどを活用したものでもよい。ただし, 薄い表記は減点になったり, 採点の対象にならない。目安としては, 通常の濃さでコピーしたときにはっきりと複写されることが望ましい。

(2) 必ず, ステープラー(ホッチキス)で1箇所を確実にとめる。

(3) レポートにはページ数を付す。例えば, 全5ページのレポートであれば, 1/5, 2/5, 3/5, 4/5, 5/5といったようにページを付す。

(4) レポートに表紙はつけない。

(5) レポートに表紙を付すことを望んでいないため, 1ページ目の最初に提出日, 提出先, 提出者学籍番号と氏名, レポートに適切なタイトルを名付け記述する。また, レポート課題(2)において, 何を選択したのか冒頭に記述する。例えば, 最初のページは, 次のようになる。

平成18年10月10日

科学技術史担当助教授

樋口 良之 殿

200610A2

産業 太郎

## 生産物流システムの調査と解析

課題：

- (1) マクロな科学技術の発展過程とミクロな科学技術の発展過程の解説.
- (2) 具体的な科学・技術の系統事例を一つあげてマクロな科学技術の発展過程が連続していることの検証.

## 1. はじめに

(6) 内容は、レポート作成者の判断で自由に記述してかまわないが、章、節、項などの区分をしたポイントシステムによって記述する。区分ごとに適切なタイトルを付して記述するなど、理解されやすい表記につとめる。

(7) 「ビジネス社会に有用な人材となる訓練を兼ねた授業とする」との観点から、ビジネス文書、報告書などを念頭に、レポートを作成する努力を求める。話し言葉ではなく、書き言葉で記述する。

(8) レポートの記述にあたっては、上下左右の余白を25ミリ程度とり、大きすぎず、小さすぎず、配慮する。また、文字の大きさは、12ポイントを基準とする。行間は、詰めすぎず、広げすぎない。

(9) レポートをまとめるにあたり、できるだけ図表を多用する。

(10) レポートが作成できたら、必ず精査し、誤字脱字の修正、ロジカルシンキングといった視点に立って、加筆修正を繰り返し、本当に満足いくレポートに仕上げる。エビデンスとして、自ら添削したものを添付した場合には、その添削の水準により、評価を上げることも検討できる。添削物を提出する際には、最終的に提出するレポートの後に、添付し提出すること。

(11) 本文中に引用、参考にした書籍、論文、記事などを「文献」として、レポートの最後に記載する。

例： (1) 島田、経営情報システム 改訂版、日科技連、pp273-282、2001.